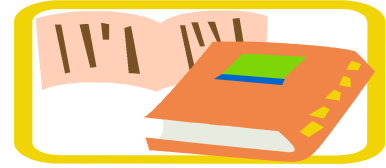


国語

中学校第2学年 「C読むこと」 『環境問題入門』 ー山岡寛人ー (平成22年度埼玉県小・中学校学習状況調査から)

●これは、「埼玉県中学校教育課程評価資料 平成23年3月」のP27～29を基に、本資料集の趣旨にそって、作成したものです。
 「C読むこと」指導事項ウ「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること」を言語活動例イ「説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること」を通して指導するものです。展開中の1から5は以下の【課題解決のための授業改善の視点】のそれぞれの取組であることを表します。



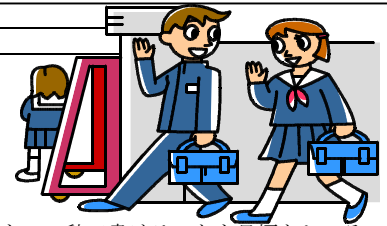
【課題解決のための授業改善の視点】

- 1 見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動
- 2 目的を明確にした相互交流
- 3 読書へつなげる学習過程
- 4 内容が明確で授業に生かせる宿題
- 5 書く時間の設定

【本時の目標】

- (1) 文章を読んで内容や表現の仕方について考え、自分のものの見方や考え方を広げようとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 文章を読んで、文章の構成や展開の工夫について、根拠となる部分をあげて自分の考えをもつことができる。(読むこと)
- (3) 文章に用いられている漢字を正しく読むことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

展開	学習活動	学習内容	○指導・援助と評価の工夫 ○学力向上プランとの関連
	●一斉指導 1 課題に取り組み。 冒頭部分視写3回(宿題)を2人1組で確認する。	4	内容が明確で授業に生かせる宿題を出しましょう。これは、平成22年度埼玉県小・中学校学習状況調査における、説明文の冒頭部分視写3回を宿題に出した場合の例です。
導入	4 授業の冒頭で前時に課した宿題に関する学習活動を入れ込み、生徒の本時への学習意欲を向上させます。 2 宿題(冒頭部分視写3回)の成果をみるための「冒頭部分(ひらがな文)視写」を行う。 ・冒頭部分(ひらがな文)を漢字仮名交じり文に直す小テストを行う。 ・採点する。 ・できなかった、間違えた漢字を赤ペンで直す。	○漢字を書き文や文章の中で使うこと。 まよがる経済 しうか東京 よなか京や うこえで文化 とるすのす が環の あ境の る問の かとでは かとは 考しは まよがる経済 しうか東京 よなか京や うこえで文化 とるすのす が環の あ境の る問の かとでは かとは 考しは	○1行15字前後を30秒で書けることを目標とし、そのペースで意味のまとまりごとに正確に視写している。 ○満点だった生徒に挙手をさせ、生徒一人一人の地道な努力と工夫を具体的に称える。 ★1年生までに学習した常用漢字に加え、その他に300字から350字程度までの漢字を読むことができる。 ★学年別配当表のうち950字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
展開	●一斉指導 3 本時の流れを開き、見通しを立てる。本時は、説明文を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べる時間であることを、学習課題を確認することによって知る。	4	毎授業、新出漢字、新出音訓の漢字テストだけでは、生徒たちの漢字学習への意欲は向上しません。意図的に文章の中で漢字を使う力を問うことで、漢字を書く力をつける必要性を理解させます。
	1 「書き手の目的や意図、表現の仕方」について、根拠を明確にして3文で書こう。		1 求めている分量をはっきり示すことによって生徒の学習意欲を喚起します。
展開	4 筆者の論の展開や表現の仕方に注目しながら、本文を黙読する。 5 学習課題解決につながる以下の小発問1～小発問3についてこれまでの学習を振り返りながら、自分の答えを書く。→数名に発表させた後に、教師が以下の解答例を示す。	5	「表現の仕方」とは、叙述にかかわる表現全般のことです。例えば、以下の①～④などが考えられます。 ①口語体と文語体、常体と敬体、和文調の文体と漢文調の文体などの文章類型 ②簡潔な述べ方や丁寧な述べ方、断定的な述べ方などの文章表現 ③説明的な文章での中心的な部分と付加的な部分との関係や事実と意見との書き分け ④文学的な文章での描写の仕方や比喩の用い方 既習の「表現の仕方」を想起させ、本時の授業の課題にあった書き方を確認してから始めることで生徒の学習活動がスムーズに進みます。
展開	小発問1 この文章で具体的な環境問題について書かれている段落はどこからどこまでか。その根拠も書くこと。 小発問2 この文章ではいくつの環境問題が取り上げられているか。また、それぞれの段落に示されているか。 小発問3 環境問題が示された段落以外の部分にはどんな役目があるか。	1 解答例 ①～⑫段落 根拠 ①段落は話題提示の役割をしている ③段落は筆者の考まともが書かれている 2 解答例 4つ ④ 大気汚染の問題 ⑨ 水の問題 ⑩ 温暖化・ヒートアイランド問題 ⑫ ゴミの問題 3 解答例 それぞれの環の具体的な例を挙げたり、したりする役割	○小発問3つを用いながら、論の展開図を黒板に書き、筆者の論の展開の意図や表現の仕方の特徴を押さえさせる。 5 本時のねらい(指導事項ウ)を達成するためには様々な方法が考えられます。ここでは ①学習課題解決につながる既習事項(意味段落ごとのまとめ)を基に、熟考させ(中心となる大切な事柄を読み取る)、各自【個人】で要旨をまとめさせる。 ②4人1組【小グループ】で書いたものを互いに交流する。 ③さらに発表させて「要旨例」を確認【全体】して最後に自分【個人】のまとめ方を振り返る。 という言語活動例を示しました。



6 学習課題「書き手の目的や意図、表現の仕方」について根拠を明確して3文で書く。

2 小グループで交流の場を設定し、言語活動の充実を図りましょう。課題によってはペア学習が効果的な場合もあります。また、個人からペア学習、そして小グループでの交流へつなげる展開も言語活動の充実を図る有効な手だてとなります。生徒たちが自分の考えと友達のことを交流させる場を設け、ねらいに迫らせませす。

7 書いたものを4人一組で交流する。
8 4人の中で、誰のものが根拠が明確で分かりやすく書かれているか、その理由も考えて1人決める。

9 グループの代表の中から2～3名発表する。

2 「書いたものを交流すること」で自分の書いた文章に対しての意見や助言によって気付かされたり、改めて認識したりしたことを明確にし、自分の表現に役立てることをねらいます。

[書く手引き]

筆者は、
例えば、
これは筆者が、

組 ()
後に環境問題を示している。

からだと考える。

5 評価場面は、本時の目標にかかわった内容、場面とし、目標と指導と評価と評価に基づく支援を一体化させることが重要です。

5 必要に応じて、A評価に達した生徒へ講じる手だても記述しましょう。

評価場面

〈学習活動に即した評価規準〉アの② エの①
〈評価方法〉
・発表内容、ノートによる観察
・机間指導による観察
(手だて)
・十分に書いている生徒には、「書くは違う書き出しのものに挑戦する。
・書けていない生徒には、比較のしているキーワードに線を引かせ、の理解に応じたヒントを与える。

5 評価規準に達していない生徒には具体的な手立てを講じましょう。

◎誰のものが筆者の論の展開の目的や意図をとらえて書かれているか、その書き方やまとめ方のよさを見つけることを交流の目的として明確に示した上で、回し読みさせる。
○発表した生徒一人一人のよさを具体的に称え、気が付いた点も添える。

学習課題の答え1

1 筆者は具体的な例を挙げた後に、環境問題を示している。
2 例えば、段落②③で大都会と高尾山の空の色、植物の葉の色を比較して、その違いの原因として段落④で大気汚染の問題を示している。
3 これは筆者が、読み手に対してより分かりやすく、身近なこととして感じてもらうために表現の仕方を工夫して書いたからだと考える。

学習課題の答え2

1 筆者は高尾山と大都会の比較をした後に環境問題を
2 例えば、②③段落では空の色と植物の葉の色、④れぞれ大気汚染の問題や水の問題を示している。
3 これは筆者が、読み手に対して環境問題が身近に書いたからだと考える。

1 指導者は学習課題の答えを学習指導案に明確に示しましょう。生徒の答えと比較し、指導者がねらった授業が展開できたかを確認して次時に生かすようにします。

10 教師の説明を聞く。

○表現の仕方のとらえ方
・論の展開を押さえること
○根拠を明確にした書き方
・具体例を押さえること

★先生の話や友だちの発表をしっかりと聞き、発表することができます。

11 本時の課題について振り返る。

12 身近な環境問題に触れる他の作品のタイトルを聞く。

3 本時のねらい「環境問題入門」の論の構成や展開をとらえ、根拠と自分の考えをも

◎「読むこと」の指導事項ウについて、生徒の言葉で語られるように指導助言する。

読書へつなげる学習過程を常に意識しましょう。ここでは、他の作品を紹介して発展的な読書を単元計画の中に位置付けることも大切です。

授業の最後に生徒が当該授業で学習した内容を振り返る機会を設け、学習内容の確実な定着を図りましょう。本時では、筆者の表現の仕方について押さえるには、論の展開をとらえ、根拠を明確にして説明することの大切さについて、生徒の言葉で語られたいものです。

1 根拠を明確にして三文で書いた例
1 筆者は具体的な例を挙げた後に、環境問題を
2 空の色と植物の葉の色を比較して、その違いの原因として大気汚染の問題を示している。
3 これは筆者が、読み手に対してより分かりやすく、身近なこととして感じてもらうために表現の仕方を工夫して書いたからだと考える。

- 論の展開
- ① 話題の提示
 - ② 大気汚染の問題を考えるき
 - ③ 大気汚染の問題
 - ④ 水の問題を考えるき
 - ⑤ 水の問題
 - ⑥ 温暖化・ヒートアイランドの問題
 - ⑦ ごみの問題を考えるき
 - ⑧ 水の問題
 - ⑨ 水の問題
 - ⑩ 温暖化・ヒートアイランドの問題
 - ⑪ ごみの問題を考えるき
 - ⑫ 水の問題
 - ⑬ 水の問題

1 板書によって生徒がその1時間の学習を振り返るためにも、板書計画とそれに基づく充実した板書が有効です。生徒の発表によっては、その内容を生かして板書計画から離れることも必要です。

「書き手の目的や意図、表現の仕方」について、根拠を明確にして三文で書こう。

5/5
環境問題入門
山岡 寛人

教師自身が一時間の授業の見通しを明確にするために、板書計画を立てましょう。国語科では教材名と作者名・筆者名をはじめに書き、学習課題を明確に示して、生徒にも授業の見通しをもたせましょう。

